

2018年度第1回「福祉・たすけあい事業部会」を開催しました！

9月20日、千葉県生協連会議室において、第1回目の開催となる福祉・たすけあい事業部会を開催し、関係者も含めて11名の参加がありました。

今回は千葉市在宅医療・介護連携支援センターの久保田健太郎さんをお招きし、『「助けて」と言える地域を目指して ～東千葉の取り組みを通して見えてきたもの～』と題して学習・意見交換をおこないました。

はじめに、千葉市の地域包括ケアシステムの概要、続いて東千葉の取り組みについて説明がありました。

千葉市では地域包括ケアシステムの構築に向けて、健康寿命の延伸、日常生活を支援する体制の整備、介護基盤の整備、適正な介護保険制度の運営をポイントに事業計画を策定しています。

東千葉の取り組みの特長としてはまずは「自分のために」そして「地域の仲間とともに」、最終的には「助けてと言える地域を目指して」取り組みを進めている。最初の1年間は丁寧にワークショップをして自分たちが何をしたいのか、同じようなことをしたい人で集まって話し合い、具体的な取り組みにするには何をするのか8つのプロジェクトを作ってすすめた。また、たくさんの方に参加してもらうために住民フォーラムをおこない自分たちがやってきたことを報告した。プロジェクトには千葉市、千葉大学、社協も協力し、会場も地域にある会場を提供してもらった。



千葉市在宅医療・介護連携支援センター 久保田健太郎さん

4年目を迎えてこれからどのように進めるかを自治会の加入者全世帯にアンケート調査をおこない、東千葉地区についての思いや暮らす上での不安・課題などを聞いた。アンケートの結果、防災や災害への備えに不安を抱えている方が多いことに気が付いた。現在、防災活動ですでに実績のある既存団体と連携を目指してすすめている。活動を通して自治会と地域の和・輪・環の会がそれぞれの強みを活かしてそれぞれの課題を把握しながら地域づくりを進めることが大切であることが分かった。

東千葉の取り組みを通して見えてきたものとして以下の報告がありました。

- ・「支え合い」ではなく「自分のため」の活動とすることで多様な参加者となった
- ・多くの住民の主体的な参加を促した。
- ・プロジェクトを設置することで計画が素早く実行され、連携した取り組みにもつながった。
- ・住民フォーラムをおこなうことで住民自身が活動の意義を見出すきっかけとなった。
- ・専門職や行政職員が適度な距離間を保ち参加することで住民メンバーは安心感を持って活動を進めることができた。

〈懇談の様子〉

Q.ワークショップを数多くやってきたことが分かりました。参加者を増やすための工夫や参加された方の世代などの特長を教えてください。

A.元々、熱心な参加者は居たが、参加者を増やすために行政や大学の方も参加することで、より参加しやすい環境ができました。参加している世代としては70歳代の方がメインとなっていますが、フォーラムには若い世代も参加してもらっています。

Q 地域づくりの取り組みとして地域ごとに特色があると思うが水平展開についてはどのように考えていますか？

A.行政職員として意識的に横展開しようと考えているが、住民が住民に対して横展開してもらえるように意識をしています。

Q.地域の中で、住民主体で進めることは大切だと分かっているが、実際は難しい状況です。各プロジェクトの中で中心的な存在はいたのでしょうか？また、出てきた課題に対しての次の展開はどのように考えていますか？

A.定期的に行っていく中で中心人物となる人はいました。また、周りの方々も協力者として加わるようになっていきました。次の課題については地域に新たな協力者を巻き込んで進められるように考えています。

